

經濟論叢

第166卷 第4号

哀 辞

故田中真晴名誉教授遺影および略歴

カール・クニースの経済学講義……………	八 木 紀一郎	1
ごみ処理広域化に関する政策史分析(1)……………	八 木 信 一	27
1949年ドイツ・マルク切り下げ問題をめぐる 米仏関係……………	河 崎 信 樹	43
ヴェルテンベルクにおける編物産業内の 社会的分業の展開(2)……………	森 良 次	59
日中戦争期におけるアメリカの対華支援(1)……………	大 石 恵	73
追 憶 文		
田中真晴先生の業績を偲ぶ……………	松 嶋 敦 茂 梅 澤 直 樹	86
弔辞……………	田 中 秀 夫	91

平成12年10月

京 都 大 学 経 済 学 会

〈追憶文〉

弔 辞

田 中 秀 夫

田中先生。突然のご逝去でした。先週の金曜日に病院にうかがいました時、先生は「そろそろ皆さんとお別れしようとおもってますねん。」とはっきりと、少し茶目っ気を感じさせる口振りでおっしゃいました。あの日先生は、顔色もよく、出版計画の込み入った相談もできるほどお元気でした。わたしは、まだ当分は大丈夫だと思って帰りました。

ですから昨日、まったく忽然とお亡くなりになったという気持ちを否定できません。先生は、大正十四年生まれ、京都大学を卒業ののち、大学に残られ、およそ25歳から25年間、講師、助教授、教授として、多難であった時期の京都大学で、研究と教育、後継者の育成に尽力されました。そして、学園紛争という出来事の後、甲南大学で50代と60代の前半を過ごされ、そのあと数年、龍谷大学で教鞭をとられました。

研究者、教育者として先生が果たされた役割はまことに大きなものがありました。最初の著書『ロシア経済思想史の研究』は専門家には今もなお必読文献とされております重厚な研究であり、先生の存在を日本の学界に広く報せる業績でありました。

40歳代で経済原論という難しい領域に転じられてからの先生の勉強ぶりは驚くべきものでありました。このジャンルで先生は書物を残されませんでした。その営みは膨大なノートとして残されてありますし、後継者が幾人も育ちました。

先生は経済学史学会の幹事として長く学会のために貢献されました。そして、甲南大学時代には代表幹事として、学会の改革に努力され、数々の新機軸が導入されました。また甲南大学時代には学部長として、学部改革にリーダーシップを発揮されました。

先生は、しかしながら、公的に活躍されただけではありません。京都大学を去られると同時期に始まった方法論研究会の主催者として、理論史と思想史を研究する集まりを大切にされました。本日お集まりの幾人もが、この研究会で先生に親しく指導をうけることができました。研究会での先生は、大體、愉快そうでした。齒に衣着せぬ鋭い批評、そして軽妙なウィットを先生が口にされるのを、わたしたちはいつも楽しみにしていま

した。先生はこの研究会のために財政的にも惜しみない支援をされました。そのおかげで『自由主義経済思想の比較研究』が出版されたことは記憶にあたらしいところであります。いつだったか、先生はお金を出し、わたしは労力を出すという話になったとき、松嶋さんが「ぼくは何も出さない」と言われました。すかさず「きみは知恵を出す」と先生はおっしゃいました。先生独特のこのような妙答にもう接し得ないと思うと、まことに淋しいものがあります。

先生の人生は必ずしも順風満帆ではありませんでした。個人的な不幸を幾度も経験されました。しかし、先生は人生を楽しむ達人でもありました。謡と囲碁をこよなく愛された先生でしたが、わたしはどちらもやりませんので、不肖の弟子でありました。

このように人間味あふれる先生に惹かれた人はたくさんあったと思います。先生はまことに素晴らしい魅力的な人格の持ち主でした。先生の残された原稿から、やがて二冊の本が出来ます。「ウェーバー研究の諸論点」、『一経済学史家の回想』です。わたしたちはこれからも先生のお仕事と人柄をいつも心の片隅において、先生のされようとしたことを継承していきたいと思っています。

先生、長い間、ありがとうございました。どうか安らかに休みなさい。